様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ２３０７３

研究課題名（和文）名詞句における統語構造と定性・特定性の意味解釈の相互関係に関する研究

研究課題名（英文）Interaction between the syntactic structure and semantic interpretation of definiteness/specificity in nominal phrases

研究代表者
宮内　拓也（Miyauchi, Takuya）

東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・特任助教

研究者番号：５０７８１２１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：顕在的な冠詞を持たない言語における名詞句についてはその統語構造に関して現在でも様々に議論があり，その解明は理論言語学上における大きな未解決の問題の一つであるといえる.
本研究課題では，この問題に対して，冠詞のない言語としてロシア語を取り上げ，名詞句の統語構造と定性・特定性の意味解釈の関係，および周辺の諸現象に関して検討することで，問題の一部に解答を与えた.

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究課題では，ロシア語における数詞と所有代名詞を共に含む句における定性の解釈，存在文における定性制約，目的語の否定属格現象，文内での要素の配列(語順)といった現象をもとに，しばしば先行研究で指摘されている定性・特定性の名詞句への実現のために限定詞句が必要であるという主張を否定することとなった.
さらに検討を加えるべきことは多く残っているものの，言語学上の一つの未解決の問題となっている冠詞を持たない言語における名詞句の統語構造の解明に関して一定の寄与ができたものと思われる.

研究成果の概要（英文）：The syntactic structure of nominal phrases in languages without overt articles has still been controversial, and its elucidation is one of the significant tasks in theoretical linguistics.
In this research project, I examined the relationship between the syntactic structure and semantic interpretation of definiteness/specificity in nominal phrases, and some surrounding phenomena, taking up Russian as a language without articles.

研究分野：言語学，ロシア語学

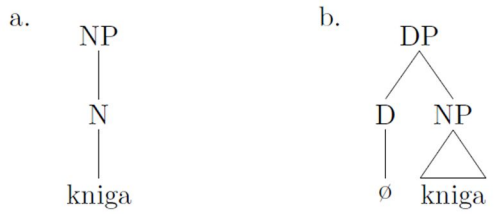
キーワード：名詞句　限定詞句　定性　特定性　ロシア語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

いわゆる名詞句は従来 NP (Noun Phrase) として分析されてきたが，Fukui (1986) や Abney (1987) により DP (Determiner Phrase) 分析が提唱されて以来，例えば，英語における *the* などの冠詞は DP の主要部を占め，NP を補部に持つという構造が受け入れられている．つまり，これは名詞句の主要部が名詞ではなく，冠詞などを含む限定詞 (D) であることを意味している．

顕在的な冠詞のない言語の名詞句を考えると，例えばロシア語の名詞 *kniga*「(ある/その) 本」は NP 分析では以下 a. のように名詞 N のみで句が構成される．その一方，DP 分析では b. のように形態的，音声的に実現しない限定詞 (φ) を D として想定する必要がある．



冠詞のない言語の名詞句にも DP 分析を適用すべきなのかという点については現在でも議論が分かれている．いかなる言語でも名詞句は DP であると考える「普遍的 DP 仮説」(Pereltsvaig 2007 など) と名詞句が DP か NP かは言語によると考える「パラメーター化 DP 仮説」(Fukui 1986, Bošković 2009 など) が併存しており，DP が言語横断的に存在するか否かという問題は理論言語学のひとつの大きな問題になっている．

２．研究の目的

1.で述べた背景を受けて，本研究課題では，冠詞のない言語として主にロシア語を取り上げ，名詞句の統語構造と定性・特定性の意味解釈との関係から「DP はあらゆる言語で普遍的に存在するのか」という問題を明らかにすることを目的とする．

Lyons (1999) は限定詞 D は定性・特定性の表れであると主張しており，一般に名詞句の定性・特定性は DP の領域で実現するとされる．そのため，DP が言語普遍的でないと考えられる場合には，DP を持たない言語において定性・特定性が名詞句においていかにして実現されるのかということが問題となり，これを明らかにすることも目的となる．

３．研究の方法

冠詞を持たないロシア語においては，名詞の文法カテゴリーである性，数，格，有生性とは異なり，定性・特定性は名詞句内に義務的に直接顕在化されない．よって，本研究課題では，主に名詞の定性・特定性が間接的に表出され得る (と考えられる) 以下の諸現象を手掛かりに，2.で述べた目的の達成を目指した：

- 数詞と所有代名詞を共に含む句における定性の解釈
- 存在文における定性制約
- 目的語の否定属格現象
- 文内での要素の配列 (語順)

４．研究成果

本研究課題において，得られた主な成果は以下の通りである：

(1) 所有形容詞が数詞に先行する句は最大解釈を受けるという事実が, 名詞句が DP であることの根拠の 1 つとされている (Kagan and Pereltsvaig 2012) が，統語的に主要部名詞よりも低い位置にあると想定される属格名詞句と所有形容詞をパラフレーズした場合でも最大解釈を得られることから，これが否定されることを示した.

(2) 存在文における定性制約，目的語の否定属格現象，文内での要素の配列 (語順) が定性・特定性に関連するという先行研究 (Chvany 1973, Paducheva 2000, Harves 2013 など) の指摘を改めて確認した.

(3) 所有形容詞と数詞を含む句における最大解釈は定性に還元できることを，存在文における定性制約，目的語の否定属格現象，文内での要素の配列 (語順) をテストとして用いて示した.

(4) 定の演算子を想定し, 所有形容詞と数詞を含む最大解釈を受ける句について, その解釈を意味論により構成的に導くことができることを示した.

(5) 定の演算子の位置は，DP 仮説の下では統語的な観点で DP 領域に位置していると考えることができるが，NP 構造のもとでは名詞句のどこにでも現れうると考えた上で，意味計算から導出できることを示した.

(6) 以上より，ロシア語においては DP を想定せずに名詞句の定性・特定性を実現できることから，少なくとも名詞句の定性・特定性という観点からは「DP はあらゆる言語で普遍的に存在する」必要はないことを示した.

【引用文献】

Abney, S. P. 1987. The English noun phrase in its sentential aspect. Ph.D. Diss., MIT.

Bošković, Z. 2009. More on the no-DP analysis of article-less languages. *Studia Linguistica* 63: 187–203.

Chvany, C. V. 1973. Notes on ‘root’ and ‘structure-preserving’ in Russian. In *You take the high node and I will take the low node*, 252–290. Chicago Linguistic Society.

Fukui, N. 1986. A theory of category projection and its applications. Ph.D.Diss., MIT.

Harves, S. 2013. The genitive of negation in Russian. *Language and Linguistics Compass* 7: 647–662.

Kagan, O. and A. Pereltsvaig. 2012. Motivating the DP projection in languages without articles. *MIT Working Papers in Linguistics* 68:167–178.

Lyons, C. 1999. *Definiteness.* CUP.

Paducheva, E. 2000. Deniteness effect: The case of Russian. In *Reference and anaphoricrelations*, 133–146. Springer.

Pereltsvaig, A. 2007. The universality of DP: A view from Russian. *Studia Linguistica*, 61: 59–94.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計12件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 Rei Miyata, Takuya Miyauchi	４．巻 --
２．論文標題 Metalanguages for source document analysis: Properties and elements	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Metalanguages for Dissecting Translation Processes: Theoretical Development and Practical Applications	６．最初と最後の頁 63--79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781003250852-8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Rei Miyata, Takuya Miyauchi	４．巻 --
２．論文標題 Metalanguage for describing the effects of revisions	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Metalanguages for Dissecting Translation Processes: Theoretical Development and Practical Applications	６．最初と最後の頁 116--128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781003250852-11	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Takuya Miyauchi	４．巻 --
２．論文標題 Maximal interpretation and definiteness of nominal phrases in Russian: Implication for the NP/DP parameter	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Advances in formal Slavic linguistics 2018	６．最初と最後の頁 261--279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.5483110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 宮内拓也，影浦峡	４．巻 45
２．論文標題 言語学的カテゴリーに基づく翻訳QAスキームの分析	５．発行年 2021年
３．雑誌名 生涯学習基盤経営研究	６．最初と最後の頁 13--26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002000030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takuya Miyauchi	4．巻 —
2．論文標題 How to introduce instrumental agents: Evidence from binding in Russian event nominal phrases	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Advances in formal Slavic linguistics 2017	6．最初と最後の頁 179--204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.3764857	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 Takuya Miyauchi	4．巻 —
2．論文標題 A phase-theoretic account of restrictions on θ-roles of postnominal genitives in Russian event nominal phrases	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Formal Approaches to Slavic Linguistics: The Urbana-Champaign Meeting 2017	6．最初と最後の頁 264--282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 宮内拓也，プロホロワ・マリア	4．巻 19
2．論文標題 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のロシア語翻訳データの構築とその日露対照研究への活用の可能性	5．発行年 2020年
3．雑誌名 国立国語研究所論集	6．最初と最後の頁 167--185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00002834	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 宮内拓也，浅原正幸	4．巻 27
2．論文標題 日本語における名詞句の情報構造と語順の相関についての統計的検討	5．発行年 2020年
3．雑誌名 自然言語処理	6．最初と最後の頁 361--382
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5715/jnlp.27.361	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 宮内拓也	4．巻 －
2．論文標題 日本語における出来事名詞句の構造とその受動文との類似性	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『明日へ翔ぶ 人文社会学の新視点 5』	6．最初と最後の頁 169--206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮内拓也	4．巻 －
2．論文標題 文章理解研究のための視線走査実験	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究：学習者の母語から捉えた日本語理解の姿』	6．最初と最後の頁 125--142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井伊菜穂子，宮内拓也	4．巻 －
2．論文標題 接続詞による文脈理解の方法	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究：学習者の母語から捉えた日本語理解の姿』	6．最初と最後の頁 143--168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中啓行，宮内拓也	4．巻 －
2．論文標題 指示語による文脈理解の方法	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究：学習者の母語から捉えた日本語理解の姿』	6．最初と最後の頁 169--192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 Takuya Miyauchi, Rei Miyata, Kyo Kageura
２．発表標題 Constructing a Metalanguage for Analyzing Source Documents in Translation Practice
３．学会等名 The 3rd International Conference “EnTRetextos”
４．発表年 2021年

１．発表者名 宮内拓也，宮田玲
２．発表標題 起点文書分析のためののメタ言語構築
３．学会等名 日本通訳翻訳学会関東支部第57回例会
４．発表年 2020年

１．発表者名 宮内拓也，影浦峡
２．発表標題 翻訳におけるQA記述の分析：言語学的カテゴリーを手掛かりに
３．学会等名 言語処理学会第26回年次大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 宮田玲，宮内拓也，影浦峡
２．発表標題 翻訳のための起点文書分析：文献レビューの枠組み
３．学会等名 言語処理学会第26回年次大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Takuya Miyauchi
２．発表標題 Modification of a syntactic structure of Russian event nominal phrases and some consequences
３．学会等名 The 28th annual meeting of Formal Approaches to Slavic Linguistics (FASL 28)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takuya Miyauchi
２．発表標題 Syntactic case hierarchy and generalized case realization requirement in Russian: With special reference to the prepositional quantifier okolo
３．学会等名 The 14th annual meeting of the Slavic Linguistics Society (SLS 14)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takuya Miyauchi, Masayuki Asahara
２．発表標題 Statistical approaches to correlation between information structure and word orders of noun phrases in Japanese
３．学会等名 The 16th international conference of the Pacific Association for Computational Linguistics (PACLING 2019)（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関